

令和5年度 岐阜県立岐阜工業高等学校 自己評価報告書

岐阜県立岐阜工業高等学校 全日制

今年度の学校教育目標およびスクールポリシー

1 学校教育目標	(1) 確かな学力・健やかな体・豊かな心の調和のとれた人材の育成 (2) 自立力・共生力・自己実現力のある人材の育成 (3) 高い志とグローバルな視野をもって夢に挑戦できる人材の育成 (4) 地域社会の発展に貢献できる人材の育成		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心の調和」の取れた生徒 ・「自立力」「共生力」「自己実現力」のある生徒 ・高い志とグローバルな視野を持って夢に挑戦できる生徒 ・地域社会の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・基礎学力の確実な定着と主体的な学習態度の育成、授業規律の徹底 ・確かな技術や技能と生きる力を育む、特色ある工業教育の推進 ・信頼と愛情を基盤とした共感的な生徒理解に徹する積極的な指導の充実 ・将来の自己実現を目指すキャリア教育（進路指導）の推進 ・規範意識の高揚を図った部活動の振興	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・ものづくりに興味を持ち、他者と協議しながら主体的に学び、「ものづくり日本一」を目指す生徒 ・資格取得に興味を持ち、多様な学びに主体的に取り組み、自らの可能性に挑戦し、「資格取得日本一」を目指す生徒 ・部活動に興味を持ち、部活動と学習を両立し、3年間意欲的に取り組み「部活動日本一」を目指す生徒

○教務部

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析	○8割以上の保護者から「社会や地域から期待される魅力ある工業教育の推進」に努めているとの肯定的な評価を受けた。 ○本校が目指している『満足度日本一の工業高校』に関連した「本校に入学できてよかった」「子供はよるこんで学校に行っている」という項目において、肯定的な回答が約9割であった。 ▲「ICTを活用した学習活動や協働的学びの機会、オンライン等での学習支援などにより、生徒の理解を高めようと努力している」という項目において、保護者からの肯定的な回答が約1割減少した。		
5 学校の抱える課題	・工業高校の特色やよさを地域社会の皆様（中学生を含む）にもっと知っていただく必要があること。 ・大学等への進学指導の充実と、それに応じたカリキュラム編成。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・岐阜工業高校の魅力を広く知っていただけるよう、あらゆる場面で本校のPRに力を入れる。また、SNSを活用する。 ・進路実現に向けたカリキュラムの検討及び基礎学力の定着。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 本校のPR活動の充実 (2) 高校見学会等の体験内容の改善 (3) ICTを活用したわかりやすい授業の実施	(1) 入学者選抜における出願状況 (2) 夏の高校見学会の希望者数の増 (3) 成績会議での成績優秀者や成績不良者の増減		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・夏の高校見学会及びオープンスクールにおいて中学生が興味を持つ体験内容で実施。 ・成績不良者指導後、勉強会を実施。 ・朝学習の実施。 ・Webによる課題研究発表会の実施など。	①夏の高校見学会、オープンスクール参加者数 ②成績不良者数 ③授業アンケート	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
12 成果 課題	○夏の高校見学会や秋のオープンスクールへの希望者が昨年より増加し、一定の成果があった。（夏：約150名増、秋：約50名増） ○アンケート結果から「ホームページ等を用いて、保護者へ様々な情報を速やかに伝えている」では、肯定的な意見が9割。 ▲成績不良者指導を実施しても、成績不良科目を計画的に解消できない生徒もあり、粘り強い指導や支援が必要。		
13 来年度に向けての改善方策案	・1年次の学科選択までに、学科の魅力を生徒へわかりやすくPRする。 ・教育活動の質を向上させ、本校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの構築に努める。 ・本校のホームページやInstagramにおいて、各学科群・学科等のページについて内容の充実を図り、更新頻度を更に向上させる。		

○生徒支援部(教育相談)

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析現状の分析	○人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。 ○悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い。 ▲生徒が感じていることと保護者が感じていることに大きな差がある。	
5 学校の抱える課題	◇保護者の方が「わからない」と回答する割合が高いところもあるので、学校が取り組んでいることを保護者の方にも理解していただけるよう対策すること。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に判断し行動しようとする態度や自己を生かす能力の育成 ・倫理観や規範意識を身に付ける指導の徹底 ・全校体制による教育相談の充実 ・問題行動や支援の必要な生徒に対する組織的な対応 ・家庭、地域社会、関係諸機関等との連携 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 生活委員会やMSリーダーズの活動 (2) 人権教育統一LHR「ひびきあい活動」 (3) 学校行事、部活動 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校アンケート(保護者・生徒) (2) いじめに関するアンケート(生徒対象年3回) 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生活委員会とMSリーダーズの活動として交通安全運動や、笠松町と連携して挨拶運動や清掃活動をおこなった。 ・スマートフォン使用の注意喚起は適切なタイミングでおこなった。 ・いじめに関するアンケートと心のアンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応さらにSCとの連携を図り組織対応が行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自主的かつ組織で活動することができたか。 ②情報収集と生徒理解に努め生徒指導を行うことができたか。 ③学校いじめ防止基本方針に基づいて、取組むことができたか。 	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
12 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートや面談によって生徒情報を把握し、迅速に対応すること。 ○事案は職員で共有し、組織で対応した。 ○身だしなみ点検やスマホの使用など自己管理能力を再確認する機会を作れた。 ・ ▲安易な欠席、遅刻、早退が増え、基本的な生活習慣の定着に対する指導。 	
13 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 欠席遅刻早退の体調管理と時間管理は、社会人の常識であることを高校生の中に身に付けさせる。 ・ 個人には機会を捉えて話をして考えさせること。また、全体には自分の問題として理解させていく。 ・ 粘り強く指導支援していく。 		

○進路支援部

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析現状の分析	○生徒・保護者へのアンケート結果では、進路情報提供等の進路支援に関して、昨年同様に概ね満足頂いている。また、進路支援部が独自で実施している昨年度卒業生に対する進路先に関する満足度のアンケートでも十分満足・概ね満足が8割以上を占めている。	
5 学校の抱える課題	◇今後は進学希望者の割合が増えていくことが予想されるので、全校体制でのガイダンス機能や進学学習支援体制を今まで以上に充実させていきたい。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自己を理解し、進路実現に向け主体的に選択決定できる能力や態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験を通じ、進路適性の理解と進路選択決定能力を育成 ・情報量豊かな進路ガイダンス、進路相談の充実 ・発達段階に応じたキャリア教育の充実 ・育友会、家庭及び企業等の教育力を活かした連携 ・職員の共通理解の下、計画的な進路支援と指導体制の確立 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 進路の手引きの有効活用 (2) 各種調査による進路意識の高揚と基礎力・SPI・就職模試等による自己理解 (3) 進路ガイダンスの充実と企業見学・保護者向け説明会の実施 (4) 企業訪問の実施と大学説明会への参加	(1) 将来を見据え目的意識を持った進路選択と面接や手続きの対応ができたか。 (2) 各種検査結果を踏まえた自分自身の適性と基礎力の実態の把握 (3) ガイダンスアンケートの結果の分析と企業見学の感想 (4) 企業訪問報告書の確認と入試情報の提示	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・手引きの活用や基礎力・SPI・就職模試、諸調査により自分の能力・適性など自己理解を深める。 ・企業・大学等の外部講師から職業について様々な説明を聞き、進路意識を高める。 ・企業見学等の体験を通じ、職業に対する意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自己理解を深め、学習意欲の向上を図る。 ②進路選択の決定能力を養う。 ③キャリア教育の充実と進路意識の高揚を図る。 	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
12 成果・課題	○今年度の進路関係行事は計画通り実施することができた。インターンシップでの就業体験や進路ガイダンス、卒業生と語る会などでは企業・進学先の担当者や卒業生を外部講師として招き、生徒に最新の進路情報が提供できるように心掛け実施できた。 ▲進学情報等を今まで以上に職員間で共有し、活用できるように進学指導体制を整えていきたい。	
13 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップや進路ガイダンス等の実践的な体験学習の場を充実させ、より一層生徒が主体的に進路選択できるようにサポートしていきたい。 ・進学希望者の割合が増えてきており、進学情報の提供方法や外部模試の活用方法等を検討していきたい。 		

○特別活動部

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会については種目の変更を行い、昨年より各生徒が参加できる種目の数を増やすことができた。耐寒競歩大会は昨年同様に計画したが天候に恵まれず中止となった。学校行事への充実度（学校行事を適切に計画しているか）について生徒・保護者ともに良好な評価をしている。 ・部活動の活発度の評価（適切な管理体制）について生徒評価は昨年並み、保護者評価は向上している。 ・生徒会活動の活発度はこの2年間で少しずつ向上している。 ・ボランティア活動への取り組みは昨年並みの評価であった。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の充実とリーダーの育成 ・部活動、HR活動を通した生徒の学校生活の充実 ・ボランティア活動への積極的参加 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部と特別活動部職員との連携を図る。 ・特別活動部と各学科、各学年との連携を図る。 ・部活動の活性化と各部活動への支援と連携を図る。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 執行部会の定例化と活動内容の随時報告 (2) 生徒会行事の早期計画と役割分担決定 (3) 執行部の自主的活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒会行事後のアンケートに実施と反省 (2) 行事が計画に沿って実施できたかの確認 (3) 生徒、保護者、評議員による評価 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事（運動会・文化祭）について生徒会執行部を中心に計画的に主体的に取り組めた。 ・定期的に「生徒会だより」を発行し、学校行事部活動紹介、生徒会活動などを紹介した。 ・全校生徒へ「ペットボトルキャップ回収」を呼びかけた。 ・昨年より縮小した形式に少し種目の変更を加えた運動会開催、育友会参加の文化祭開催と来年度以降につながる行事が実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒会行事の運営状況 ②全校生徒の興味関心 ③生徒会の自主的活動 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> A B C D <input type="checkbox"/> A B C D <input type="checkbox"/> A B C D
12 成果 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会が学校生活の円滑化を考えた意見を出し合い、現状の問題点の把握や改善案を提出するなど積極的に活動できた。自らすべきことを考え、相談に来るなど前向きな姿が目立った。 ○運動会はコロナ禍後に再開して2年目を迎えたが、種目の変更や出場人数の再編などを試み、参加種目の確保に努めながら実施した。文化祭についても生徒会執行部が自主的に活動するなど円滑な運営ができた。 ○Web配信での実施となった表彰式、壮行会も円滑に運営できた。 ▲部活動については各部顧問間で連携を取りながら次年度以降の活性化を図るため議論の必要性を感じた。 ▲生徒会執行部をはじめ、各HR委員、各部活動の部長、副部长などを中心とした学校の中心となる生徒の育成も必要である。 	
13 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・部顧問会議の充実を図る。（部活動の活性化、リーダーの養成） ・生徒会執行部の定例化の継続、生徒会活動の広報活動。 ・生徒会活動が生徒全体の学校生活の充実につながる工夫。 ・運動会、文化祭の内容精査と関係分掌との連携。 		

○図書部

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	○情報収集、学習支援の場として生徒や教員に有効活用されている。 ○進路対策としても活用できる参考資料の提示や書き方指導がなされている。 ▲図書館便りの発行により、生徒への様々な啓発がなされているが生徒の書籍に対する意識が低く、利用者が特定の生徒に偏りがちである。	
5 学校の抱える課題	◇スマホ等の情報機器の普及により、生徒の活字離れ、書籍への関心度の低さは年々助長される傾向に有り、図書館本来の目指すものが生徒に浸透していかない傾向が見られる。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集手段の提示と閲覧室環境の整備。 ・適切な読書指導。 ・図書館便りへの取り組みと発行。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 推薦図書コーナーや表示板などの整備。 (2) 図書委員への積極的な呼びかけ。	(1) 推薦図書など利用者数はどうであったか。 (2) 図書館便りや日常活動の充実度はどうか。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実情に合った推薦図書提示。 ・図書館だよりなど委員への指導と助言。 ・基礎学力向上への寄与。 	<ul style="list-style-type: none"> ①先生方からの推薦図書紹介。 ②図書館便りの発行と内容。 ③参考書籍の利用数など。 	<p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
<p>12 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工業系科目や部活動に関する書籍を充実させることができた。 ○生徒の要望に沿った書籍を増やして、来館を促すよう努めた。 ▲一方で、来館する生徒に偏りが見られるので、新規の開拓が必要である。 ・ ○来館者の目的に応じた資料提示ができた。 ○図書委員会による図書館だより作成が充実した。 ○蔵書の見直しや整理をし、廃棄図書の選定や蔵書の配置換えをした。 ○注目の新聞記事について掲示板を使って掲示した。 ▲図書職員全員が、書籍の分類や所在を理解しておく必要がある。 ○生徒の読書感想文への取り組み姿勢が年々低下しており、独自作品がなかなか書けなくなってきたことから、読書感想文を強要することなく、読書のきっかけ作りに視点を変えて、全校生徒を対象に指導を試みた。 	<p>総合評価</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイを充実させ、書籍への興味を喚起しやすい雰囲気作りを進める。 		

○渉外部

<p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>○保護者アンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校はHP等を用いて、保護者へ様々な情報を速やかに伝えているは91%達成。 ・学校は、育友会や部活動後援会等の関係団体の徴収金について、その予算や決済、経費の執行内容を詳細に公開している。88%達成 ・一斉配信メールサービスは有効に活用されている。96%達成 <p>▲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は、保護者の悩みや相談事に適切に対応してくれる。現状74% ・学校では、部活動が適切な管理体制のもとに、適切に行われている。現状74% 	
<p>5 学校の抱える課題</p>	<p>◇学校HPやメール配信等ICTの積極的な活用により情報共有はほぼできているが、育友会総会や教育懇談会等の出席率は低調である。近年はコロナ禍の影響をはじめ、社会の流れ「教員の働き方改革」「育友会活動の負担軽減」も叫ばれ、今後のあり方を見直す時期に来ている。</p>	
<p>6 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>○学校そして会員相互の意思の疎通をはかると共に、会員の資質の向上をめざす。</p> <p>○様々なイベントの参加を通して、会員相互の交流を深める。</p> <p>○会員目線でのメール配信やICTを積極的な活用により情報を共有し、会員が学校教育に参加する環境を整える。</p> <p>○同窓会からの支援を余すことなく活用し育友会の活動を充実させる。</p>	
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	
<p>(1)学校行事の連絡やPR。HPやメールマガジンを活用し、家庭と学校の連絡を密にする。</p> <p>(2)事業（イベント）ごとにアンケートを取り、次の取り組みにフィードバックさせ、有効な取り組みとなるように改善する。</p> <p>(3)創立100周年に向け、同窓会、学校、育友会が三位一体となって、事業を推進する。</p>	<p>(1)保護者の行事等への参加率・充実度・関心度</p> <p>(2)生徒および保護者へのアンケート</p> <p>(3)同窓会（同窓生）からの現況の学校行事、部活動生徒の取り組みに対する評価および今後の取り組みに対する意見（本校の将来性に対する意見）。</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p>	<p>10 評価視点</p>	<p>11 評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・育友会総会へのメール配信 ・学校行事のメールマガジンでの配信で情報提供 ・文化祭育友会食品バザーの協力 	<p>①情報提供はできたが、出席率は、13%程度</p> <p>②アンケート結果より情報提供は、できている（96%）</p> <p>③役員、部活動保護者会の支援により成功裏に終えた保護者は大変積極的であった</p>	<p>A B <input checked="" type="checkbox"/> C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p>
<p>12 成果課題</p> <p>○役員の方の学校行事に対する取り組みは積極的であり、出席率も良い。</p> <p>○運動部保護者会のご理解とご支援により、育友会活動が活性化されている。</p> <p>○ICTの活用による情報提供は、たいへん大きな成果を上げ、情報共有ができている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・▲情報共有が学校行事への参加にはつながっていない。 ・▲社会の流れに反映した新しい育友会活動を模索する必要がある。 	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育友会総会時の授業参観の実施と外部講師による進路に関する講演会を実施する。 ・教育懇談会は、本校一会場で、平日の夜と休日の午後の2回を実施する。保護者の意見交換を重視する。 ・文化祭では、本年度同様の食品バザーを実施する。 ・メールマガジンによる情報提供を一方通行にならないように Forms等を利用し、連携を密にする。 ・創立100周年に向けて、同窓会、学校の準備（実行委員会活動）に参加する。 ・次年度以降の役員選出のあり方や引き継ぎを明確にする。 		

○保健厚生部

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 安全・衛生面への配慮は生徒から一定の評価を得ることができた。 ケガや事故の発生や感染症の集団感染対策など、学校に求められる安全教育及び安全管理体制の役割は大きい。 	
5 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ◇保健管理 <ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断検査結果の活用と事後指導の徹底 事故発生時の校内体制の周知徹底と救急法講習会の開催 ◇保健指導・安全指導 <ul style="list-style-type: none"> 安全点検の定期的な実施 感染症予防促進（新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等） 職員の健康保持増進のサポート 	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保健委員会活動の充実 保健厚生部と各学科、各分掌との連携 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 担任・家庭・学校医などと連携し、定期健康診断の実施と事後指導の徹底を図る。 (2) 保健委員会活動や保健だより等を活用し、感染症予防などの啓発活動を行う。 (3) 事故発生の未然防止を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校アンケート（保護者・生徒） (2) 統計調査や事後措置率 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> 保健だより、すこやか（保健委員会作成）の発行を毎月行った。 保健委員会活動の中で、水質検査、温湿度検査、教室の換気、石鹼の補充などを行った。 熱中症セミナー、職員救急法講習会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①統計による実態把握 ②保健委員会活動報告状況 ③講演会後のアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の位置づけが第2類から第5類へ移行したが、引き続き、基本的な感染症対策（手洗い、換気等）の啓発に努めた。 ○生徒を対象とした熱中症セミナーを通して熱中症対策に努め、昨年度より熱中症の発生件数や救急搬送の件数が少なかった。 ○1年生の生徒を対象にした救急法講習会を実施した。 ▲歯科の事後措置率が約1割と非常に低い。 	
13 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な感染症対策の継続と生徒の感染予防の意識の定着を図る。 担任と連携し、保護者懇談の際に生徒・保護者に受診勧告を促したい。 体育館の改修工事など、状況に応じた安全管理体制を整えたい。 		

○環境・安全部

4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	○昨年よりきれいに保たれていると生徒は感じている。 ▲清掃活動の習慣に加え、常に身の回りの環境に気を配る心を育て、美しく生活できるよう意識を高めさせたい。				
5	学校の抱える課題	◇課外や休日におけるマナーを違反したごみ出し。指定の時間から外れて不燃物、粗大ごみが捨てられること。 ◇無駄をなくし、ごみの総量をへらすこと。				
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な学習活動を行うための環境整備と美化の推進 ・災害等非常事態における対処方法の理解と徹底 ・大規模地震対策に向けた、職員の共通理解と生徒への指導の徹底 				
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標				
	(1) 掃除道具の整備、清掃活動の点検 (2) 月間目標等による啓蒙活動 (3) 実態に即した防災マニュアルの修正	(1) 校内の美化状況の確認 (2) 環境安全部での意識づけ調査 (3) 命を守る訓練による検証				
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価			
	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動・箇所の問題点や改善点を確認しながら、よりよい分担となるよう取り組んだ。 ・「命を守る訓練」で、毎回目標を明確にし、内容も工夫して、こなすだけの訓練にならないよう留意した。 ・学校安全計画、防災マニュアル、タイムラインを実態に即し見直しを図った。 	①学校の美化環境が整えられているか。 ②日常的に危機管理の意識をもって生活しているか。 ③災害時、学校と保護者および地域との連携ができていないか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D
12	成果 ○日常では清掃活動が習慣づき、ごみの分別の意識もきちんとしている。休日などにマナーから外れたごみが出てくることもあり、関係者すべてへの啓蒙が必要である。 ・○「命を守る訓練」と帰宅確認は確実に実行した。煙体験に加え実際に火を付け消火器を使う機会もつくった。 課題 ▲「安全管理」や「危機意識」に関する意識・行動・習慣をさらに向上させる。		総合評価			
			A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D
13	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・「校内美化」、「安全管理」への意識の向上に向け、部会や生徒委員会の活動を活性化し、学校全体の意識の共有と向上を図る。 ・帰宅確認のスムーズな進行を工夫する。 					